

# 終戦直前に死んだ幼い弟に誓う

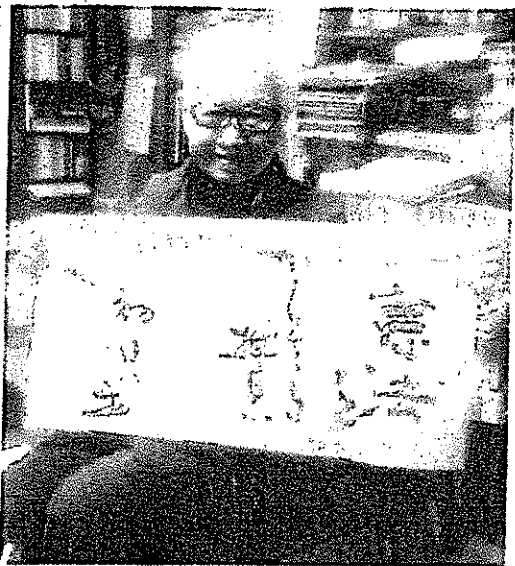
憲法をかえざる誓い 初日の出。年初の書です。神奈川県鎌倉市で書道教室を開く石田美智子さん(86)。平和を守る「覚悟」を書き、俳句、川柳、歌で表現してきました。日本共産党中央委員会に集約された「安倍9条改憲NO!3000万人」署名に、毛筆でしたためられた俳句が同封されていました。その思いは…。(遠藤寿人)

神奈川・鎌倉

石田美智子さん(86)

「雪ならで 日本のお空へリが降る」「取り戻すは 基地なき 独立日本ぞ」「武器作ることがビジネスとなる不思議」とあり、「怒りを署名にこめて」と結ばれています。

書道をはじめたのは40歳の時。どうして始めたのか? 石田さんは弟を亡くした悲しい体験を語ります。終戦の前年に生まれた弟。食糧難で母の乳は枯れ疎開先に乳製品などもなく、コメ粉をのりに砂糖を加えた、すずめの涙の食事では、いくら



正月に書いた作品を手にする石田美智子さん 神奈川県鎌倉市

## 耳が不自由でも用紙を郵送して広げています

安倍9条改憲 **NO!**  
**3000万人**  
**署名**

も食べてくれない。「衰弱しているよ」とに生のリンゴの果汁を与えたら、おなかを壊し終戦直前、泣くことをやめました。リンゴをやったのは私です。責任を感じています」

以来、「二度と弟のような子どもを出してはいけない。子どもが戦の中で命を落とすことはあってはならない」と決意。「二度と戦争を起こさせないために、憲法9条を守り『反戦平和』を表現していくことが、私の一生の目的になったのです」と話します。

石田さんは両耳が不自由で、電話での対話が困難です。知り合いに手紙を書いて署名用紙を入れ、返信封筒に集約団体の住所を書き、82円切手を貼って入れて送ります。「自分宛てだと強制

になる。良かったら送ってくださいと、相手が気楽に送れるようにしています」といいます。

今、石田さんが一番懸念しているのが武器ビジネスの繁栄です。「戦争で平和が創られた歴史はありません。どの宗教も法令も殺人を禁じています。その殺人の道具である武器がビジネスとしてつくられ、利を得ているのは許し難い。それが公認されている間、平和は達成できないと考えます。武器ビジネスをなくすことが急務です」と強く訴えています。